

第14章－1 第一次世界大戦とロシア革命

1. 第一次世界大戦

< WWI に至る国際関係の推移 > p.320

- ・バルカン半島では オーストリア vs ロシア
(スラヴ民族を領内に抱える) (パン・スラヴ主義の盟主)
- ・中近東では ドイツ…… 3B政策 = Berlin、Byzantium (Istanbul)、Baghdad
↓
1899 トルコから バグダード 鉄道敷設権獲得
イギリス… 3C政策
- ・イギリス vs ドイツ (ヴィルヘルム2世の「世界政策」) …… 建艦競争
- ・フランス vs ドイツ (普仏戦争以来の因縁)
- ・イギリス vs ロシア (ロシアの南下政策を嫌うイギリス)

(1). ビスマルク時代 (1871-90) ……フランスの孤立化、ヨーロッパの現状維持

- 1873 三帝同盟 (独・墺・露) → 1878 ベルリン会議で露が離反
- 1879 独墺同盟 1882 三国同盟 (独・墺・伊)
- 1887 独露再保障条約 (あくまでも露仏接近防止)

(2). ヴィルヘルム2世親政

- 1890 独露再保障条約を更新せず → 1891 露仏同盟

(3). イギリスとフランス

- ・フランス……アフリカ横断政策でイギリスに対抗
→ 1898 ファシヨダ事件 ……独に備えて仏が譲歩
- ・イギリス…… “光栄ある孤立” (Splendid Isolation) 政策の転換
→ 1902 日英同盟 ……対露
→ 1904 日露戦争 ……英仏の同盟国同士が戦う
↓
1904 英仏協商 ……日露戦争非介入、対ドイツで利害調整

(4). イギリスとロシア

日露戦争後、ロシアは勢力衰退。英も露の革命は望まない→英露協調し独に備える

- 1907 英露協商 ……イラン北部は露、東部は英。
アフガンは英。チベットは中国の主権尊重。
= 三国協商 (英・仏・露) 完成、日英同盟も対独に改訂

(5). 三国同盟内部の対立

イタリア・オーストリア間…… “未回収のイタリア” 問題

- 1902 仏伊協商 ……リビア進出にあたり伊は仏に接近
独が仏を攻撃した際は、伊は独につかない = 三国同盟無意味に
- 1911-12 伊土戦争 → 1912 ローザンヌ条約 (伊、リビア獲得)

< バルカン戦争 (1912, 13) >

← 1878 ベルリン会議

1908.⁷ オスマン帝国で 青年トルコ 革命

→ 同年 10/5 自治公国 ブルガリア がトルコから独立宣言

〃 オーストリアが ボスニア・ヘルツェゴヴィナ 併合宣言

1912.⁸ バルカン同盟 結成……ロシアの指導下

セルビア、モンテネグロ、ギリシア、ブルガリア

1912.¹⁰ 第1次バルカン戦争（～13）……バルカン同盟 vs トルコ

同盟、伊土戦争でトルコ苦戦中に乗じて勝利

.¹¹ アルバニア 独立（公国となるが公が国外逃亡ししばらく無政府状態）

1913.⁸ ロンドン条約……トルコはバルカンの領土放棄

→ 領土分割をめぐりブルガリアと他の3国の対立

1913.⁶ 第2次バルカン戦争……ブルガリア vs 同盟3国、トルコ、ルーマニア

ブルガリア大敗 → ^{8月} ブカレスト条約で領土再配分

※2度のバルカン戦争で敗戦国となったトルコ・ブルガリアがドイツ陣営に

バルカン半島は「ヨーロッパの火薬庫」

< 反戦運動 >

▶ 第1回万国平和会議（於 ハーグ、1899）

露ニコライ2世提唱。国際仲裁裁判所の設置。戦時法規協約

▶ 社会主義政党……1889 第2インターナショナル結成（パリ）

反帝国主義→しかし開戦とともに各政党は自国の戦争支持

▶ 国際赤十字（1864、アンリ・デュナン提唱、ナイティンゲールら）

▶ 文化人……トルストイ（露）、ロマン・ロラン（仏）、ツヴェイク（独）ら

< 開戦 >

1914. 6/28 サラエヴォ事件 ……セルビア青年がオーストリア皇太子夫妻暗殺

. 7/28 オーストリアがセルビアに宣戦。→ **World War I 開戦**

. 8/1 ドイツがロシアに宣戦 → 8/3 永世中立国ベルギーの中立侵犯

. 8/4 イギリスがドイツに宣戦 → 8/23 日本もドイツに宣戦 etc.

┌ 連合国 { ・三国協商（英・仏・露）……9/3 単独不講和ロンドン条約

・日本……日英同盟を理由に参戦

・イタリア……初め中立、'15 三国同盟破棄し連合国へ

・セルビア、モンテネグロ、ギリシア、ルーマニア

└ 同盟国 三国同盟崩れ、ドイツ、オーストリア、トルコ、ブルガリア

※秘密条約で戦後の領土配分

仏（アルザス・ロレーヌ）、伊（未回収のイタリア）

日（山東省、南洋諸島）、トルコ領の分割（後述）

・ドイツの思惑……シュリーフェン計画

ロシアの行動は遅いと予想。まず全力でフランスを破り、その後反転しロシアを破る。

しかし意外にもロシア軍は迅速だった。

<初期経過>

▶ 東部戦線

1914. 8/26-30 タンネンベルク の戦
侵入してきたロシア軍を ヒンデンブルク 将軍が破る
しかしその後は戦線膠着

▶ 西部戦線

1914. 9/5-12 マルヌ の戦 ……フランス軍がドイツの進軍阻止。戦線膠着。
※塹壕戦

1916.2 ~ 12月 ヴェルダン 要塞攻防戦
ドイツ軍猛攻をフランス ペタン 将軍が死守

1916. 5/31 ユトランド沖 海戦……イギリスの制海権を覆せず

1916. 7 ~ 11月 ソンム の戦 ……イギリスが初めて戦車を使用

<総力戦>

- ・長期戦となり、戦場での軍事的勝敗よりも、背後での生産力・補給力が重要に。
- ・新兵器の登場……毒ガス（ドイツ）、戦車（イギリス）、飛行機

イギリス…… ロイド・ジョージ 戦時内閣(1916-22) 徴兵制で戦時体制に

フランス…… クレマンソー 強力内閣(1917-20)、対独強硬、戦争継続に尽力
⇔ 長期戦で国土荒廃、国民は次第に厭戦的に

ドイツ ……海軍力で劣勢。海上封鎖で植民地との連絡断たれ窮乏
社会民主党も当初は戦争協力で国内結束
→やがて左派が**独立社会民主党**結成、反戦ストライキ

<アジア・アフリカ>

列強は従属国・植民地の人的物的資源を総動員 → 戦後の民族運動活発に

▶ 中近東……イギリスの二重外交 = 「中東問題」の出発点

- 1915 フサイン・マクマホン協定
アラブ民族の独立援助を約束 →アラブの対トルコ戦闘開始
- 1916 サイクス・ピコ協定
英・仏・露でトルコ領分割・パレスティナ国際管理の秘密条約
→ロシア革命後、ソヴィエト政権により暴露
- 1917 バルフォア宣言 ……外相バルフォアからロスチャイルド家への私信
ユダヤ人のパレスティナ復帰・国家建設を支持する
→ユダヤ系金融資本家ロスチャイルド家の協力を得る

▶ 東アジア……日本はヨーロッパ戦線にほとんど介入せず

1914 ドイツ領南洋諸島を占領。中国山東省の青島を攻略。

1915 二十一カ条要求 ……大隈重信内閣が中華民国 袁世凱 に承認させる
山東省・満州における日本権益拡大 ⇔ 中立で利益をあげる米国との関係悪化
→ 1917 石井・ランシング協定

米は日本が国境を接する地域における「特殊権益」を承認（満州はOK、山東は?）

<1917年＝戦局の変化>

◆アメリカの参戦 ……大統領 ウィルソン (民主党、1913-21)

- 1914 開戦時、中立宣言
- 1915.⁵ ルシタニア号事件…英客船、ドイツ潜水艦に撃沈される
1260人死亡、うち114人がアメリカ人 →対独感情悪化
- .⁹ フランス国債引き受け、債務国から債権国に転換
- 1917.¹ ウィルソン「勝利なき平和 **Peace without Victory**」演説
両陣営に停戦呼びかけ (共倒れによる債権不払い警戒)
- .² ドイツ、無制限潜水艦 作戦 を宣言
交戦水域に入った船舶は無差別・無警告で撃沈
局面打開のため、政治的不利益は承知の上
- .⁴ アメリカ、ドイツに宣戦
巨大な生産力で連合国を勝利へ導き、戦後の指導的地位手中に

◆ロシア革命

1917. 11/8 「平和に関する布告」…ソヴィエト政府の対外第一声
無併合、無賠償、民族自決の和平を全交戦国へ

- 連合国は黙殺 → ソヴィエト政権は帝政時代の秘密外交文書を公表
列強の帝国主義的本性を暴露 (サイクス・ピコ協定など)
- ドイツ…東部戦線の圧力緩和のため、12月からソヴィエトと停戦交渉
→18年2月、新政府弱体に乗じて勝利を主張 →ソヴィエトは妥協

1918.3/3 ブレスト・リトフスク 条約…ソヴィエト代表 トロツキー 外務人民委員
ウクライナをドイツ領とする →ドイツ敗北後無効に

※「平和に関する布告」の内容が、交戦国・植民地の民衆に大きな影響
→列強は戦争目的をとりつくろふ必要に →ウィルソンの十四カ条 etc.

<同盟国の降伏>

◆オーストリア

1918. 10/27 連合国各国へ降伏宣言 11/11 皇帝退位

◆ドイツ

- 1918. 11/4 キール 軍港 の水兵暴動 → **ドイツ革命**
- . 11/9 皇帝ヴィルヘルム2世、オランダ亡命。退位
- . 11/11 コンピエーニュ森で休戦協定調印

※大戦の総括

- ・ヨーロッパ列強の当初の思惑を超えた結果に。主要王朝が姿を消す。
ハプスブルク家 (奥)、ホーエンツォレルン家 (独)、ロマノフ家 (露)
- ・アメリカの指導力強化、ソヴィエト政権の出現

2. ロシア革命

<二月革命> ……ロシア暦（ユリウス暦）での表記。グレゴリ暦とは13日違い。

1917. 3/8 (ロシア暦 2/26)

ペトログラード 暴動 (← WWI 勃発後、ドイツ語のペテルブルクを改称)

→労働者・兵士による ソヴィエト (Soviet、評議会) 結成、革命推進

. 3/15 ニコライ2世 退位、ロマノフ 朝 滅亡。共和政へ

臨時政府……自由主義ブルジョワ中心 (=立憲民主党) → 戦争続行
この段階でのソヴィエトは社会革命党・メンシェヴィキ中心

. 4/16 レーニン 帰国

亡命先スイスから、ドイツ政府と協定を結び“封印列車”でドイツ領通過

. 4/17 『四月テーゼ』発表

一切の権力をソヴィエトへ。ボリシェヴィキ強化。

この戦争は帝国主義戦争であり、阻止するために労農政府樹立が必要。

. 7/21 臨時政府首相に ケレンスキー 就任。初めレーニンと対立

. 9/7 反革命軍人の武装蜂起をボリシェヴィキが鎮圧

ボリシェヴィキの勢力拡大

<十月革命>

1917. 11/7 =旧ソ連の「革命記念日」(ロシア暦 10/25)

ボリシェヴィキの赤衛軍、ペトログラードで武装蜂起。

「臨時政府は打倒され軍事革命委員会に権力が移った」とする宣言。

. 11/8 臨時政府の置かれた冬宮を制圧。臨時政府メンバー逮捕。

全ロシア=ソヴィエト会議開会。権力のソヴィエトへの移行宣言。

// 対外第一声「平和に関する布告」…無併合・無賠償・民族自決の和平

対内第一声「土地に関する布告」

教会・貴族・地主から土地没収し農民に再分配 ↔ 反発

人民委員会 (=内閣) 成立。議長 (=首相) レーニン

外務人民委員 トロツキー、民族問題担当人民委員 スターリン

. 11/25 憲法制定議会……比例代表選挙で社会革命党が第1党 (得票率 40%)
社会革命党 410 議席、ボリシェヴィキ 180 議席..

1918. 1/19 レーニン、武力で憲法制定議会を解散。一党独裁へ。

. 3/3 ドイツと単独講和 ブレスト・リトフスク 条約

. 3/6 ボリシェヴィキ、党大会で 共産党 と改称

. 3/11 モスクワ 遷都 (1918.2/14 グレゴリ暦導入)

<対ソ干渉戦争と戦時共産主義>

- ・ソヴィエト政府……秘密条約暴露、帝政時代の債務放棄（特に対フランス）

※チェコ軍団……WWI 中、ロシアはチェコ人の反オーストリア感情を利用し、チェコ人捕虜の志望者からなる数万人のチェコ軍団を組織していた。単独講和後、チェコ軍団はチェコスロバキア独立のためシベリア経由でウラジオストクに向かい、アメリカ経由の海路で西部戦線に渡ることが連合国との間で決定された。しかし4月、レーニンは、日本軍の大規模干渉を警戒してチェコ軍団の移動停止を命令した。まもなくこの停止命令は取り消されたが、この遅滞はチェコ軍団に強い不満を引き起こした。5月、チェコ軍団は西シベリアで赤衛軍と衝突。一方、ウラジオに集結していたチェコ軍団も同志を見捨てられず、シベリアへ移動した。ウラジオとシベリアから合流したチェコ軍団は西シベリアを支配下に置いた。

- ▶ 1918.5月-22 対ソ干渉戦争（→日本史では「シベリア出兵」）
英、米、仏、日本 4国がチェコ軍団救出を名目に出兵



ソヴィエト政府

- 1917.1.2 チェカ（非常委員会）設置
反革命運動取締りのための秘密警察（→22 GPU →54 KGB）
- 1918-21 戦時共産主義 ……干渉戦争中の臨時措置的経済統制
強権発動で工業の国営化、土地国有化、農民からの穀物徴発。
- 1919 コミンテルン 結成（Communist International、第3インターナショナル）
モスクワ本部に世界各国の共産党を指導。世界革命推進で干渉戦争に対抗。

→反革命鎮圧 1920 英米仏3国撤兵（→日本は22年まで残り批判あびる）

<安定政権へ>

1921 レーニン、ネップ（新経済政策）採用
重要部門を除く私的経営、農民の余剰生産物販売を許可
→経済安定。クラーク（富農）、都市のネップマンなど富裕階級出現。

- ・対外関係も好転 ……1922.4 ラパロ条約（ドイツがソ連承認）

1922.12/30 ソヴィエト社会主義共和国連邦 成立（←日本撤退後）

USSR = Union of Soviet-Socialistic Republics

当初は、ロシア、ウクライナ、白ロシア（ベラルーシ）、ザカフカス（グルジア）の4国

<大戦後の東欧諸国> ----民族自決で独立

- ▶ ポーランド……18独立。国家元首ピウスツキ。19パデレフスキ首相（ピアスト）、パリ講和会議出席。
1920-21 ポーランド・ソ連戦争で領土拡大。1926 ピウスツキのクーデタで独裁。
- ▶ ハンガリー……1919 社会主義政権成立後まもなく崩壊。1920 ホルティの反革命独裁（WW II 末まで）
- ▶ チェコスロヴァキア……工業国。民主政治。大統領マサリク（1918-35）。
外相ベネシュ（1935～大統領、38国外亡命、46大統領、48革命で辞職後急死）
- ▶ バルト3国（リトアニア、ラトビア、エストニア）
ロシア革命に乗じて独立。対ソ干渉戦争の基地。→WW II 1940 ソ連に併合。
- ▶ セルブ・クロアート・スロヴェーン……国王独裁で1929ユーゴスラヴィアと改称
セルビア人中心 ⇔ クロアチア人との対立。